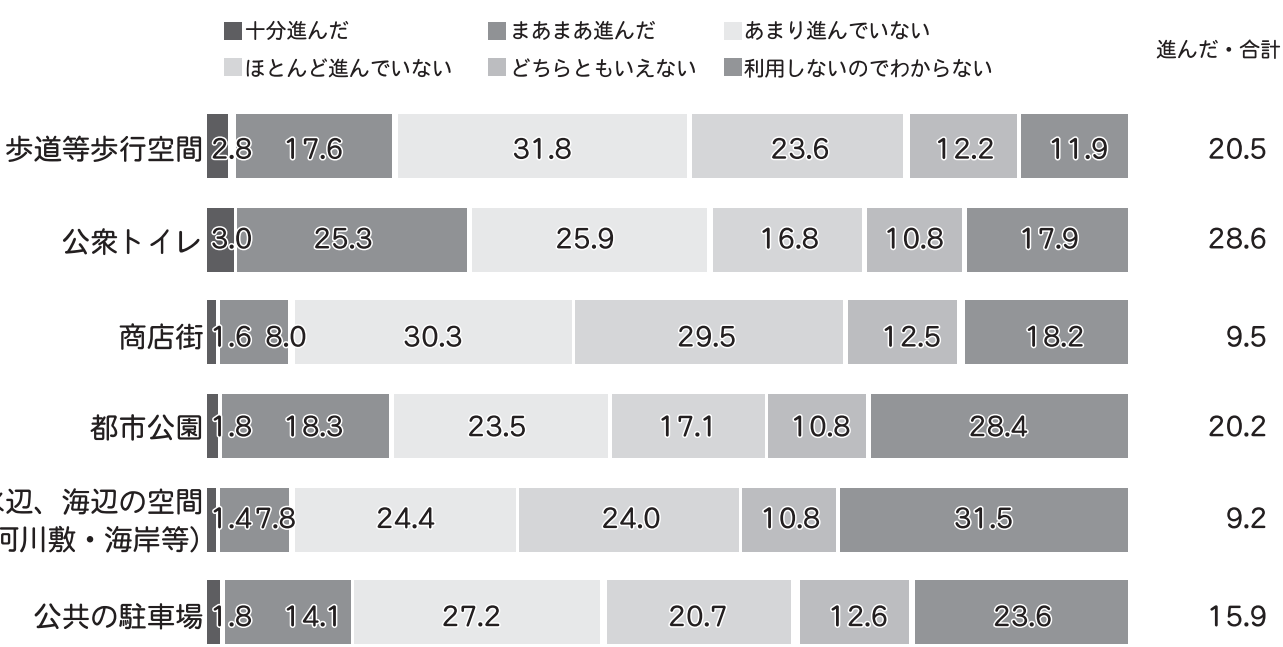


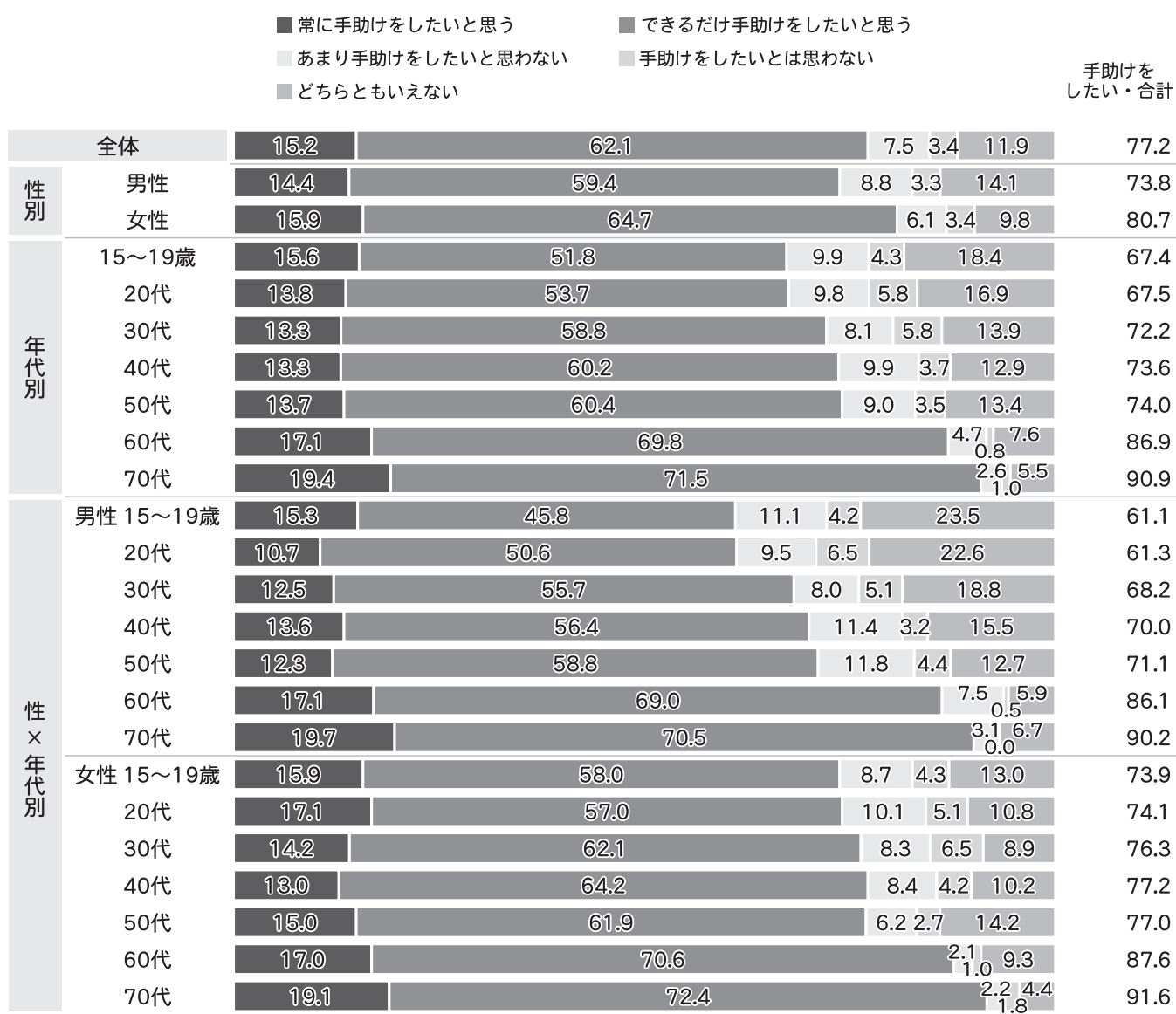
# 8割が「心のバリアフリー」に前向き

## 内閣府「令和5年度バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査」

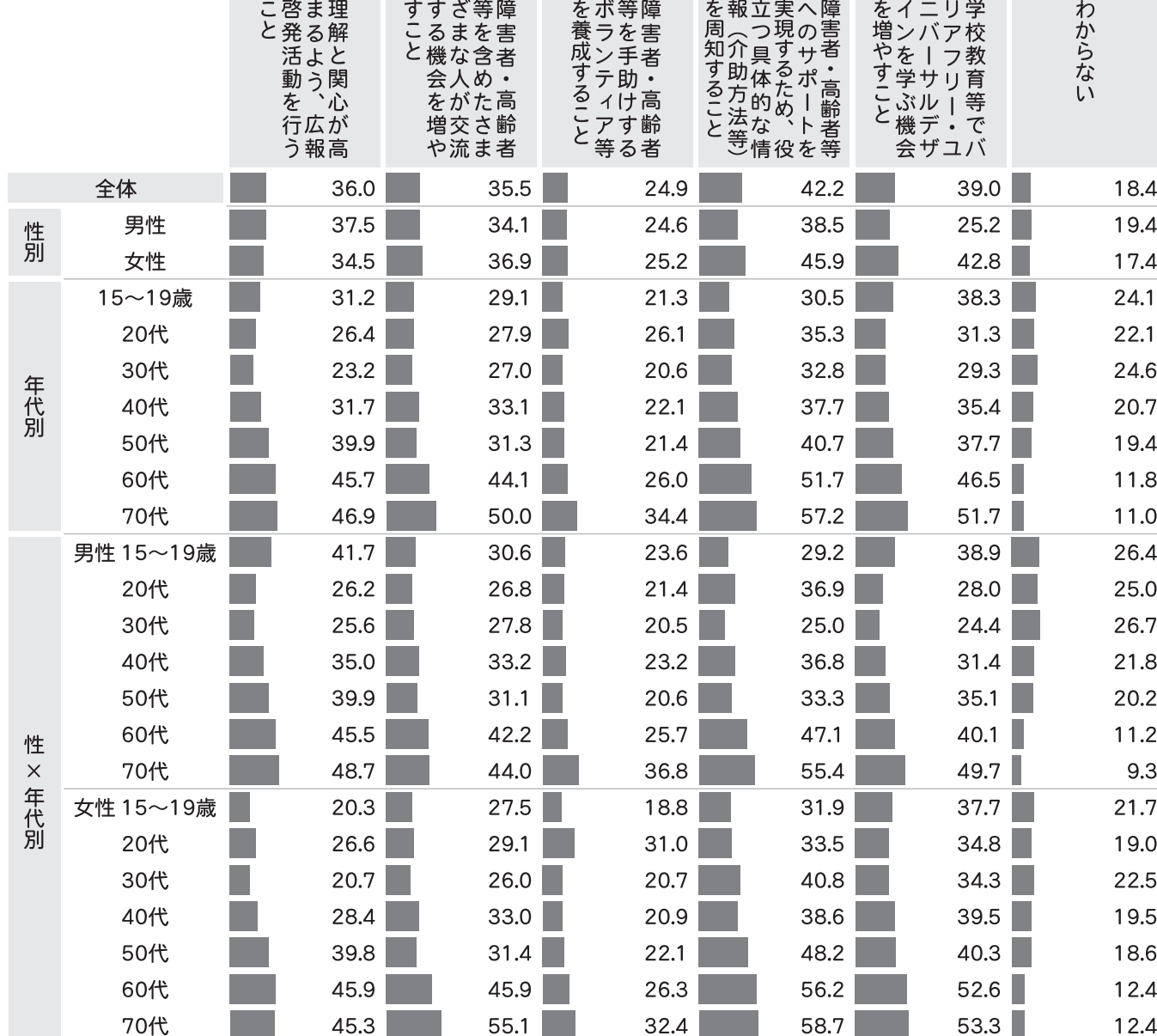
それぞれの公共空間を利用する際に、どの程度バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化が進んだと思うか



外出の際、障害者・高齢者等が世の中に存在する障壁（バリア）に困っている場合、声をかけて手助けをしたいと思いますか（一つ選択）※単位：%



「心のバリアフリー」を実現していくために、これからどのようなことが必要だと思うか（六つの項目から複数回答）※単位：%



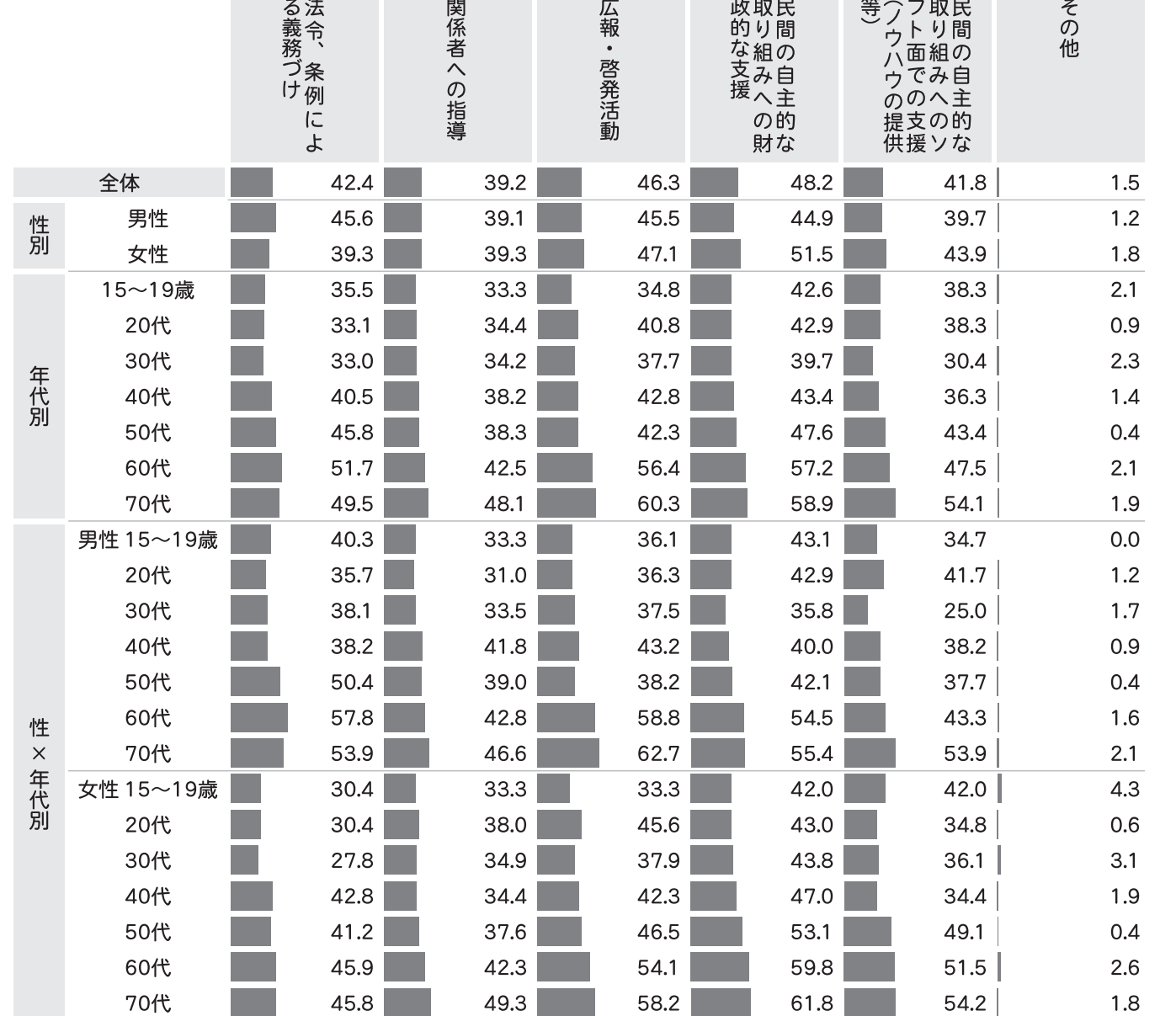
内閣府はこのほど、令和5年度の「バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査」について報告書を発表した。これによると、障害者・高齢者等が世の中に存在する障壁（バリア）に困っている場合、声をかけて手助けをしたいと思いますという人は77.2%だった。「かえって相手の迷惑になる」といって手助けをしないという人が11.9%と最も多かった。

### サポートの実現には介助方法の周知必要

この調査によると、手助けしたいと思う人の割合が高くなる一方で、手助けをしたくないという人も一定数に上った。これは、手助けの方法が分からないという人が多いことが原因の一つと見られる。

「サポートの実現には、介助方法の周知が必要」と指摘する。民間の自主的な取組みの促進は、国や地方公共団体に期待するべきで、法律や条例による義務づけは、関係者への指導や広報・啓発活動を通じて、障害者等へのサポートを実現する必要がある。

今後、さらなるバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を進めていくために国や地方公共団体に対して何を期待するか（複数回答）



以下の施設（建築物）のうち、今後、特にどの施設の利用者に対する情報提供の方法を重点的にバリアフリー化・ユニバーサル化していくことが必要か（12項目の中から三つ選択）※単位：%

